

南清 手作り 凧作品展

同時開催

北海道大凧まつり写真展

南清 さんからのメッセージ

凧作りを始めて約35年。今も毎日机に向かい、部屋の窓から見えるアポイを眺めながら小さな凧を作り続けています。

子どもの頃、自分で凧を作って遊びました。大人になってからは、とんとご無沙汰でしたが、私の住む栄町の連合自治会で6畳の大凧を作ったことをきっかけに、凧作りを始めました。

世界中で日本が一番凧の種類が多いといわれています。本に載っている全国・世界の凧をまねて、全て独学で作りました。仕事で上京した際は、日本凧の会の本部に立ち寄り、参考になる本を求めました。

自治会で作った6畳の大凧は、うまく揚がらなかったのもので、凧合戦が行われている新潟の白根に教えてもらいに行きました。教えてもらった24畳の大凧はうまく揚がりました。

次の年、6畳から24畳の大凧60枚を作り、エンルム海岸でうまく揚がりましたが、風が強すぎて全部海に落ちてしまいました。これが最初の北海道大凧まつり。平成元（1989）年のことでした。

様似町で北海道大凧まつりを約20年開催し、道内外の人々と多くの交流がうまれました。新潟の人に作り方を教えてもらいましたが、絵は新潟より上手だといわれたこともあります。

89歳になって、このような作品展を開くとは思っていませんでしたが、多くの方々にご覧いただくと嬉しいです。

〔みなみ きよし〕

昭和8（1933）年、様似町栄町に生まれる。昭和28（1953）年浦河高校卒業後、（株）南組、（株）玉木銘木店（東京）、浦河生コンクリート（株）に勤務。北海道生コンクリート工業組合理事長、全国生コンクリート協同組合連合会副会長他団体役員を歴任。

平成26年旭日双光章受章。

現在は浦河生コンクリート株式会社取締役会長。